

令和5年度教育研究活動報告書

氏名	高島 彬	所属	芸術文化学部日本文学科
学位	博士（文学）	職位	講師
専門分野	認知言語学		

I 教育活動	
本年度担当科目	
	授業科目
学部	日本語表現法、応用英語Ⅰ、応用英語Ⅱ
大学院	日本文学・言語文化総論（オムニバス：担当14、15回）
II 研究活動	
現在の研究テーマ（3つまで）	
（1）日本語の証拠性の言語変化について	
（2）物語における日本語と英語の証拠性の使用の揺れに関して	
（3）日本語におけるFictive Interactionの発生	
本年度を含む過去3年間の研究業績 R5・R4・R3	
R5	〈論文〉「現代日本語「～感」に反映されるFictive Interaction」『日本認知言語学会論文集 第23巻』、pp. 1-13. 〈学会発表〉「言葉に反映される「錯覚」—認知言語学におけるFictivity について—」『第15回おのみち文学三昧』
R4	〈論文〉「証拠性の推論と直喩表現の関係について」『函館英文学 第61号』、pp.19-34. 2022年3月. 〈学会発表〉「現代日本語「～感」に反映されるFictive Interaction」『日本認知言語学会第23回全国大会』
R3	〈論文〉 <i>A Cognitive Linguistic Approach to Evidentiality - A Case of Evidential -rasi-i in Japanese-</i> . 博士論文、金沢大学大学院.
R2以前の主な研究業績	
（1）〈論文〉「証拠性「らしい」の文法化を動機づける脱主体化のプロセス」『ことばのパーспекティブ』、pp. 417-428 中村芳久教授退職記念論文集刊行会（編）、2018年3月.	
（2）〈論文〉「小説における日本語と英語の証拠性について」『函館英語英文学会 第59号』、pp. 69-84、2020年3月.	
（3）〈研究発表〉「ガクテアル構文を動機づける「発見性」について」『日本言語学会 第148回大会』、2014年6月.	
（4）〈論文〉「英語のbe-Vingと日本語のVテイルについて：「始まり志向」の継続相と「終わり志向」の継続相について」『英文学研究 支部統合号 6』、pp.35-45. 2014年5月.	
学会、所属団体における活動（本年度を含む過去3年間の研究業績） R3・R4・R5	
所属学会・所属団体 役職等と任期	
日本英語学会、函館英語英文学会、日本英文学会、日本言語学会、日本認知言語学会、	